

ワキ汗を止めても、

体温調節機能に問題は生じません

発汗には、体温が上昇し過ぎないようにコントロールする働きがあります。ワキからの発汗を抑えることによって温度調節の機能に弊害をもたらすことはないのでしょうか？全身の発汗量および身体深部温度に与える変化を観察することで、ワキ汗を止めても健康への影響がないことが確認されています。制汗剤でワキ汗を止めても、汗の全体量は変わらず、ワキから出るはずの汗は、身体の他の部分から出るので。また、ワキ汗を止めた場合とそうでない場合との身体深部体温にも差はありません。ニオイの原因となるワキ汗は全身の発汗量の約1%。ニオイを抑えるために、微量の汗を抑えても、私たちの体温調節機能に問題は生じないのです。

制汗剤の正しい使用方法



衣理クリニック表参道 <http://www.eri-clinic.com/>
院長 片桐衣理 先生 [美容皮膚科・美容内科医]
日本内科学会・日本美容外科学会・日本抗加齢医学会評議員

長い臨床経験に基づく安全かつ効果的な方法で美容のプロはもとより、国内外のモデル・芸能関係者からも絶大な信頼を集める。健康・美容全てに精通したアンチエイジング治療のカリスマドクター。

制汗剤は誰にとっても取り入れやすく、汗でビショビショになること・汗が残ってニオイが発生することを防ぎます。制汗剤はその名の通り汗を抑えるものなので、汗をかく前に塗布しておきます。そうすれば、汗をかくシーンが急にきても、ある程度は抑えられるのです。

汗をかいてしまったら、拭きとって、少し乾かしてから制汗剤を付けます。運動後などは次から次へと汗が出るので、すぐに使うより、汗が引いてから使うのが効果的です。